

from 学部長

法学部長に就任して

法学部長

李 憲模

今年の4月から法学部長に就任しました。日本全国にある私学の約4割が定員割れを起こしているといわれる中での就任ですので厳しい船出となりました。日本には約100前後の大学が法学部を擁していますが、それぞれが自らの設立趣旨や教育理念などに向かいつつ、現代社会で存在意義を見出そうと努力を重ねています。そんな中、中央学院大学法学部は、そもそもの設立趣旨である「地方公務員養成」に重点を置く法学部として1985年度に誕生して以来、いままで30数年の歴史を歩んできました。今まで法学部では、警察官、消防官、自衛官をはじめ、市役所や町役場の職員、国家公務員などを数多く輩出してきており、千葉県内でも公務員養成でトップクラスの高い評価を頂いております。しかし近年は、求人倍率の向上という就職好況期とも囁かれる中であっても、非正規職の割合は増加の一途を辿っている厳しい現状と向き合わなければならない現実があります。

そのような現状を十分に認識し、法学部では更なる公務員養成のためにカリキュラム改革及び公務員夏季集中講座を開設す

るなど、精力的に取り組んでいます。それと同時に、大学を卒業し、社会人として社会とのかかわりや地域との付き合いもそつなくこなせるような人材を育てようと日々努力を重ねつつ取り組んでいます。どうか、法学部のこれからの取り組みや成長にもご注目下さい。また、ご意見・ご要望などをお寄せいただければ幸いです。



コース紹介

司法コース

Judicial Course

私達はキソエンI(三宅ゼミ)で知り合い、現在は法制研究室に在籍しています。仲良しといえるかどうかはわかりませんが、高校がお互いミッションスクールだったこともあり自然と意気投合したような気がします。たぶん…。中央学院大学に進学した理由も全然違って、一方は、警視庁の警視になりたいから、もう一方は、漠然と法律を勉強しておけば間違いのないと思ったからです。それに、お互い自宅から通学しているのですが、大学までの所要時間も足立区と横須賀市とは全く違いますし、好きな教科も「生物学」と「政治学原論」で全然違います。ただ、法制研究室という環境に身を置いて勉強しようという意思は共通しています。きっとお互いに異なる部分が多いことが逆に刺激になり、切磋琢磨していく原動力になっているのかもしれない。これから法律の勉強を進めていくうえで、お互いの良いところを学びあいながら成長していけたらと思っています。



くぼ まさの
久保 雅乃さん
もりもと ひめか
森元 媛香さん

神奈川県私立横須賀学院高校出身
東京都私立女子聖学院高校出身

行政コース

Administrative Course

私たちは入学式後のガイダンスでたまたま席が近くなり、その後同じゼミに所属したことから、すぐに打ち解けました。サッカーやフットサルという共通の趣味と、地方公務員志望という共通の目標を持つ仲間として、共に楽しく大学生活を送っています。

大学の授業は、高校までの勉強と比べ専門性が高く、確かに難しいと感じることもありますが、行政コースでの学びは、行政書士などの資格取得や、市役所職員・警察官などをはじめとする地方公務員試験合格にむけて、どれもためになるものばかりです。

憲法などの法律系科目はもちろん、政治学原論などの政治・行政系の科目にも興味があるので力を入れて取り組み、将来、地域に貢献できる公務員になれるよう、互いに切磋琢磨しながら有意義な大学生生活を送っていきたいです。



きくち れい
菊池 怜さん

千葉県立佐倉西高校出身

ゆうぜん ゆうすけ
熊膳 悠介さん

埼玉県立八潮高校出身

かねかわ ともゆき
金川 智之さん

茨城県私立水戸啓明高校出身

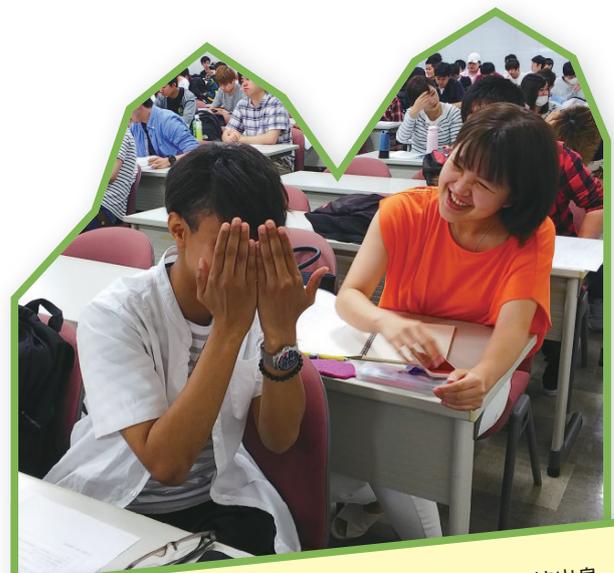
ビジネスキャリアコース

Business Career Course

入学式が終わり、その後のプライムセミナーで私たちは仲よくなりました。どちらかというお互い恥ずかしがり屋なタイプなので、ゼミごとに少人数で行動する2日間で、いろいろなことを話せたことがきっかけだったと思います。

おすすめの授業はビジネスキャリアコース1年生必修の企業法概論です。毎回ちょっとしたストーリーが授業のプリントに載っていて、おもしろいです。広い教室で、たくさんの受講生がいますが、なるべく早くに教室へ行って、近くの席で授業を受けられるようにしています。

これから4年間で、様々なビジネスに関する法律を学んだり、実際のビジネスの世界の見学をしたりしながら、新たなビジネスアイデアを考えて、起業することも夢見たりしています。中央学院大学法学部で頑張って勉強したいと思います。



きむら えりな
木村 英璃奈さん

千葉県私立西武台千葉高校出身

ほんだ ももか
本田 ジャネイ百華さん

茨城県私立常総学院高校出身

フィールドスタディーズコース

Field Studies Course

教員免許を取るならこのコースだと高校の先生から勧められたし、法律という学問を、実際に現場に出て学べるのが自分に合っていると思ったので、ここを選びました。入ってみると、岡山から宮城まで各地の出身の仲間がいて、高校とはまた違った交流の幅が広がりました。コースでは、外で焚き火をしたり、先生が自宅から持ってきたイノシシの肉を食べたりなどの変った授業など、高校ではやらなかったことが多くて魅力的です。とくに入学してすぐに館山でのコース合宿があって、まじで現場じゃん！と思ったけど、実践的だし、すぐみんなと仲良くなれて良かったです。実際に現場で学べるのが楽しいし、ゼミの仲間とも交流しやすい。やはり自分の足で行き、目で確認でき、肌で感じられるのがこのコースの特徴だと思います。

教職の授業は思っていたより全然堅くない。今まで感じてこなかった視点から考え、また答えのない問題を考えることができるのが楽しいです。大変だけど、高校の時の憧れの先生のようになりたいと思っています。



はやし だい ち
林 大地さん

宮城県私立聖和学園高校出身

さとう たい し
佐藤 大志さん

千葉県私立中央学院高校出身

さかまき み き かず
坂巻 未晃一さん

茨城県立取手第一高校出身

そね たつき
曽根 樹さん

千葉県立船橋二和高校出身

しらい ち あき
白井 千陽さん

茨城県私立水戸女子高校出身

くらの ゆう
倉野 雄羽さん

岡山県私立高梁日新高校出身

スポーツシステムコース

Sports System Course

私たちの出会いは中学1年生の時です。高校はお互い別々の学校に進学しました。けれども連絡は取り合っていて頻りに遊んでいました。高3の春になると進路をどうするか相談するようになり、大学のオープンキャンパスに行ってみようとなり、一緒に行ったのが中央学院大学でした。実際に行ってみると学生スタッフや教職員の皆さんの対応が良く、二人ともこの大学と一緒に受験することを決意し勉強を頑張りました。

入学すると先輩方が授業の組み方を丁寧に教えてくれたので大変助かりました。はじめは大学の授業の第一印象は先生と学生の距離が遠いと感じましたが、ゼミ(スポーツ学演習I)ではクラスメートや先生との距離も近く毎回楽しみになってきました。また、大学はそれぞれの授業によって受講する学生が変わるので、そのたびに新しい友達ができ輪が広がります。私たちはスポーツ系の部活やサークルにまだ入部できず悩んでいます。しかし必ず入って学生生活を楽しく思うと思っています。また、将来のためにたくさんの学びや資格取得の機会を得て就職活動にも活かせるように勉強するつもりです。



たかはし こと み
高橋 琴美さん

千葉県私立日本体育大学柏高校出身

まるやま り お
丸山 梨央さん

千葉県立松戸向陽高校出身

私は今では法学部に勤務していますが、大学の学部時代は文学部のフランス語フランス文学専修課程というところに所属しておりました。当時、同級生は29人で、そのうちの3人が女子でした。今の中央学院大学法学部の男女比と同じようなものでしょうか。仲は良かったのですが、学部を卒業して以来、1人とは年賀状で1年に1度「今度会おうね」というお付き合い、もう1人とは音信不通でした。

昨年、年賀状の彼女から「発表会があるからよかったら来て」という連絡がありました。彼女は邦楽（ほうがく）の道を歩んでおり、今や長唄の作詞作曲を手掛けています。これまでも何回かお誘いはあったのですが、いつも仕事で忙しく行けませんでした。今回こそ行きたいなあと思い、メールでやり取りをしていると「今回はせっちゃんも来れるかもって言ってる」と、音信不通の彼女の名が。「わ～、せっちゃん、なつかしー。今、何してるの?」ときくと、少し前に司法試験に合格して現在、検察庁で司法修習中とのこと。なんと、彼女も「ほうがく」の世界にいたのです!

結局、長唄の発表会にはせっちゃんも私も忙しくて行けませんでした。いい機会なので「会おう!」ということになり、この3月、仏文3人娘は学部卒業以来30年ぶりとまではいかないまでも20数年ぶりで再会を果たしました。30年近く経っていても、再会し

たとたん、その時間はどこかに吹き飛び、「いや～せっちゃん、変わってない～」[たいちゃん(長唄の彼女)、すっかりマダムだねえ][ますみちゃん、先生っばい～]と一気に話に花が咲きました。若く見えるせっちゃんは、女性の修習生で自分より年上には会ったことがなく、「女性では最高齢かも。まわりには年齢を言わずに修習している」と言っていました。

私たちは、フランス語はできなかつたけれど、なんとか自分の力で道を切り開きました。その世界が3人とも奇しくも「ほうがく」だったというのは奇縁としか言いようがありません。これからはもっと頻りに会いたいものと思っています。

学生の皆さん、そして高校生、大学受験を考えている皆さん、大学時代の友人とはいいものです。社会人になってから知り合った人とは、どんなに親しくなっても結局「デスマス体」で話すことが普通ですが、学部時代の友人とは30年近くぶりで会っても、すぐ「タメ」語で話せます。ぜひ、そういう仲間をつくってください。



先日の英語の授業で、“Aren't you new here?”(あなたはここの新入生じゃないの?)という文を扱いました。否定疑問です。“Are you new here?”(あなたはここの新入生ですか?)と普通の疑問文で尋ねるよりも、相手に“Yes”を期待します。実は尋ねたいわけではなく相手と気持ちを共有したい時にもよく使われます。たとえば絶景などを見た時に“Isn't it gorgeous?”(すごくない?)などと言う場合です。「ねえ、ヤバくない?」などと言って友人と交感することを大切にする今の学生たちは、昔よりこの否定疑問を容易に理解します。

逆に説明が難しくなったと感じるもののひとつが、人にもものを頼む際の丁寧な表現です。丁寧にすればする程よいなら話は簡単ですが、日本語でも英語でも、丁寧すぎるとむしろ無礼になったり皮肉っぽく聞こえるので厄介です。そのことを端的に表す日本語「いんぎんぶれい慇懃無礼」は現在ほとんど使われなくなりました。言葉が死ぬとそういう概念も無くなるのか、「丁寧すぎると逆に失礼に

なるので注意するように」と言ってもピンとこない学生がいるようです。最高に丁寧な依頼表現“Would you mind ~ing …?”などは、昔より細心の注意を払って教える昨今です。

